最大で4製品！アップルの新製品ラッシュ、「ご注文はお早めに」

9月は米アップルの新製品ラッシュの月だ。2021年は恒例の「iPhone」のほか、「iPad mini」や最廉価版の無印「iPad」、「アップルウォッチ」など最大四つの製品でモデルチェンジが予想されている。同時か個別発表かは定かではないが、アップルは米現地時間9月14日（日本時間では9月15日未明）に新製品発表イベントを開催するとアナウンスしている。今回注目すべきは新製品よりも、オーダー開始日時だ。

「iPhone13」はマイナーチェンジ版

最も注目されるスマートフォンの「iPhone13」は、事実上の「iPhone12s」と呼ばれるように現行モデルのマイナーチェンジ版である可能性が高い。衛星通信機能でテキストメッセージや位置情報を送信できるとの情報もある。これは現在、米ガーミンが提供している「inReachサービス」に近い。

衛星コミュニケーターのガーミン「INREACH MINI」（同社ホームページより）

同サービスは通信衛星「イリジウム」のネットワークを使い、空が開けている場所であれば地球上のどこからでも簡単なメッセージや緊急連絡、端末の位置情報をやりとりできる。ブラウザ、SNSなどのアプリ用のデータ通信や音声通信はできない。inReachの場合は個人向けで最低でも11.95ドル（約1320円）の月額料金と、1メッセージにつき50セント（約55円）の送信料がかかる。「iPhone13」が同様の機能を搭載した場合、携帯電話料金とは別に衛星通信料金が必要になりそうだ。

よほどの辺境地に出向く登山やヨットなどのエクストリームスポーツ愛好家を除けば、大規模災害で携帯基地局が機能停止した時のためだけに衛星通信サービスを有償契約するとは考えにくい。むしろ米国市場で販売済みの第5世代移動体通信規格（5G）のミリ波対応モデルを日本で投入する方が先だろう。

「iPad mini 6」はデザイン一新、「ウォッチ」は大型化

6代目となる小型タブレット端末の「iPad mini」はホームボタンを廃止して画面のサイズを現行の7.9インチから8.4インチ以上に拡張し、「iPad Air」に近いデザインへ変更する。最新のアップルペンシルにも対応するなど、こちらはフルモデルチェンジになりそうだ。

「iPadシリーズ」では最も不人気と言われる「mini」だが、小型軽量で持ち運びがしやすく、機能は中位機の「iPad Air」と同等な上に、価格も安いことから一定の熱烈なファン層が存在する。

最廉価版の「iPad」は、9月のモデルチェンジ発表が見送られるかもしれない。しかし、小中学校のリモート授業用の端末として需要が高まっており、セールスチャンスを逃さないために機能を向上した新型を投入する可能性はある。

7代目となる「アップルウォッチ」は、画面の縦サイズが従来の40／44ミリから41／45ミリにの組み合わせに変更されそうだ。これに伴い、画面が44ミリモデルの1.78インチから45ミリモデルでは1.9インチに拡がるという。加えてバッテリーの持続時間も現行機の18時間から24時間に延びるとの予想もある。

現行機では心電図や血中酸素濃度センサーが搭載されており、「シリーズ７」では体温や血糖値のセンサーが実装されるとの予想もあった。が、最近では新しい健康センサーの搭載は難しいとの見方が広がっている。

アップルは7月27日の第3四半期（4～6月）決算発表で、「半導体不足は7～9月期にはさらに悪化し、影響はiPhoneの生産にも及ぶ」との見通しを明らかにした。当然、iPhone以外の新製品も事情は同じだ。生産台数が少ないため、いずれの製品もかなりの品薄が予想される。早く手に入れたいのならば、受付開始日時を確認し、受注スタートと同時にオーダーしておきたい。出遅れてしまうと、9月発表の新製品は当分手に入らないだろう。

文：M＆A Online編集部

関連記事はこちら・9月のiPhone13は「待ち」、来春のSE3は「買い」か・EV「アップルカー」、日本車メーカーが生産する可能性はある？